資源回復計画推進事業

－小型底曳網包括的資源回復計画関連調査－

岡﨑孝博・守岡佐保

紀伊水道における小型機船底びき網漁業（以下，小底）による漁獲量は，1988年以降減少傾向にあり，2007年度には徳島県紀伊水道小型機船底びき網漁業包括的資源回復計画が策定され（表1），2011年度までの4カ年を実施期間として，漁獲努力量の削減等によって小底の漁獲量の減少傾向に歯止めをかけ，実施期間終了時に１経営あたりの年間漁獲量を2003年から2005年の3カ年平均である12.7トンに維持することを目標としている。

本事業は，資源回復計画の推進によって小底の漁獲量がどのように変化したかをモニタリングし，その効果を検証するとともに，目標達成のために新たな措置の追加等，計画の変更が必要と判断された場合には，資源回復に効果的と考えられる方策を提案することを目的としている。

紀伊水道における小底による漁獲変動をモニタリングするために，まとまった数の小底の操業があり共同出荷体制が整備されている徳島市漁協および椿泊漁協を代表漁協として選定した。1999年から2009年までの小底の１操業あたりの漁獲量について，徳島市漁協では2002年に漁獲は多かったものの概して100kg/日程度でほぼ横ばいの傾向を示した（図1）。一方，椿泊漁協では3年程度の周期で90～190kg/日で増減を繰り返す傾向がみられた（図1）。

表1．徳島県紀伊水道小型機船底びき網漁業包括的資源回復計画における魚種ごとの取組内容

魚種	現状の取組内容	新たな取組内容
ハモ	150g以下の再放流	200g以下及び4kg以上の再放流
マダイ	全長14cm以下の再放流	全長15cm以下の再放流
ヒラメ	なし	全長20cm以下の再放流
マコガレイ	なし	全長15cm以下の再放流
クルマエビ	なし	全長10cm以下の再放流
ガザミ	抱卵ガザミの再放流	継続実施

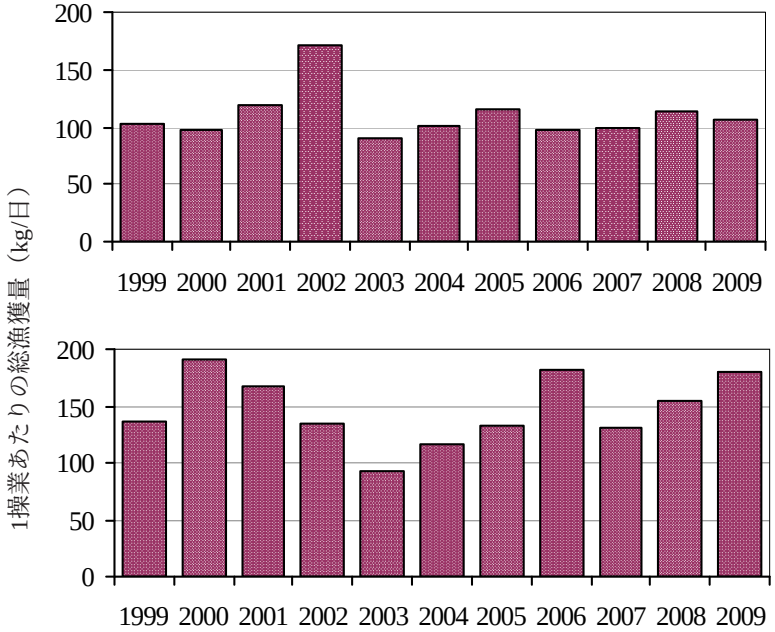

図1．小型機船底びき網漁業における漁獲量（1操業あたりの総漁獲量）の推移
上：徳島市漁協，下：椿泊漁協

資源回復計画の対象種について，1999年から2009年までの1操業あたりの漁獲量を調査した。ハモは漁獲の増減がみられるものの，2006年以降では高水準で推移している（図2）。マダイは年によって漁獲が多いが総じて横ばい傾向を示した（図3）。ヒラメは2006年以降減少傾向がみられたが2009年は前年に比べて増大した（図4）。マコガレイ，クルマエビは減少傾向，ガザミについても2006年以降減少傾向がみられた（図5～7）。

資源回復計画の対象6種のうち，3種（マコガレイ，クルマエビ，ガザミ）が減少傾向にあり，これらを含めて小底対象資源の漁獲動向をモニタリングし，計画実施の3年目となる次年度以降，計画実施の効果を評価する必要がある。

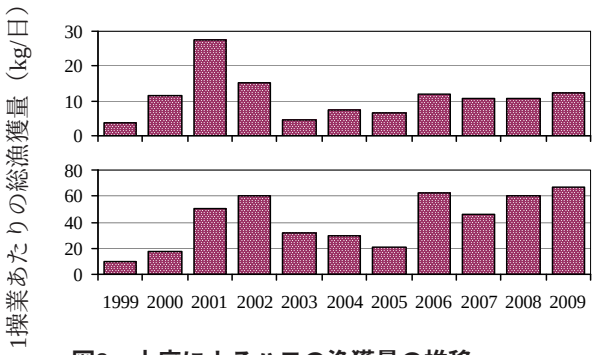

図2．小底によるハモの漁獲量の推移
上：徳島市漁協，下：椿泊漁協

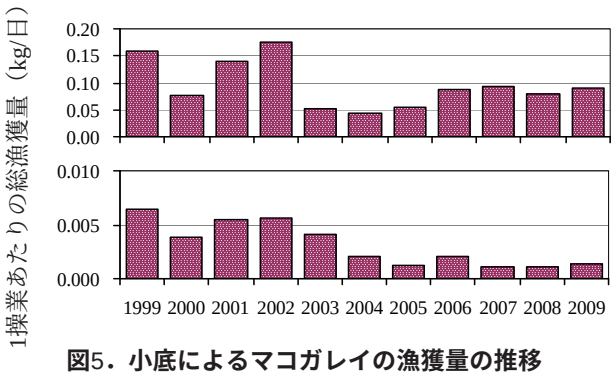

図5．小底によるマコガレイの漁獲量の推移
上：徳島市漁協，下：椿泊漁協

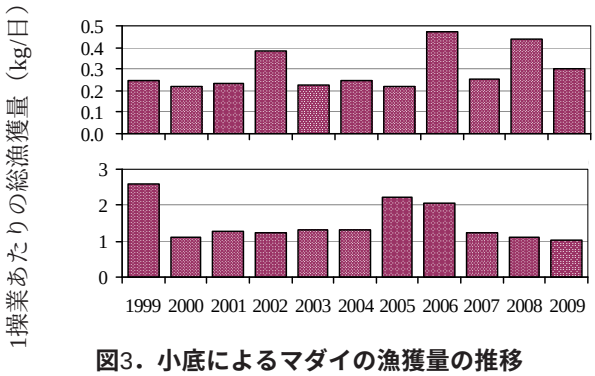

図3．小底によるマダイの漁獲量の推移
上：徳島市漁協，下：椿泊漁協

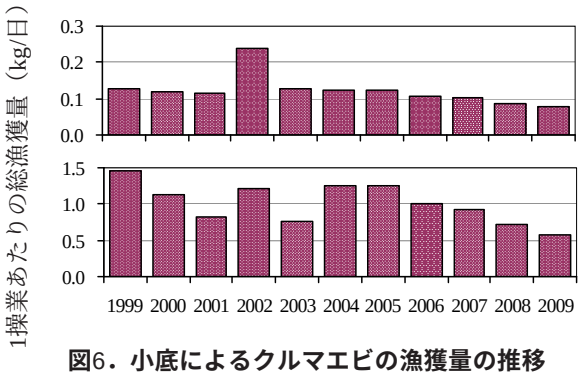

図6．小底によるクルマエビの漁獲量の推移
上：徳島市漁協，下：椿泊漁協

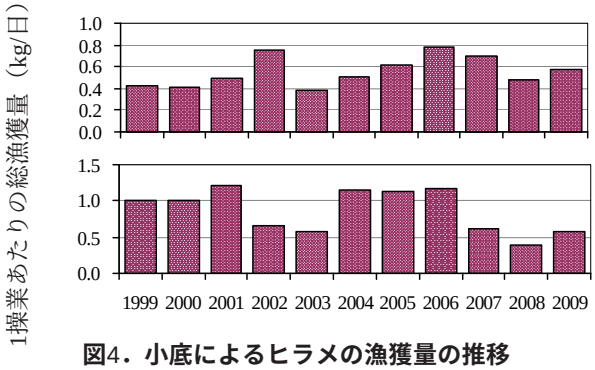

図4．小底によるヒラメの漁獲量の推移
上：徳島市漁協，下：椿泊漁協

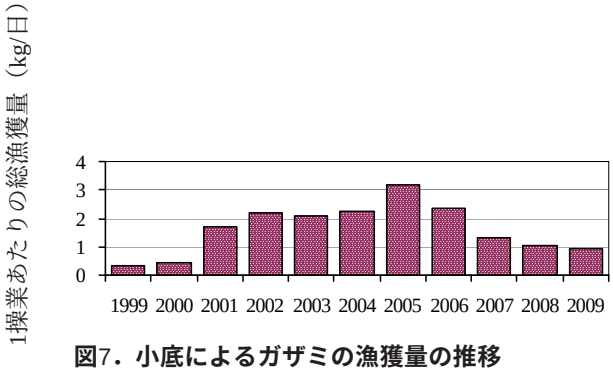

図7．小底によるガザミの漁獲量の推移
（徳島市漁協）